営農情報（小麦）第１号

令和７年１１月６日
福岡大城農業協同組合
南筑後・久留米普及指導センター

１　排水対策

小麦は湿害に弱く、排水不良田では根傷みや生育ムラ、枯熟れ等が生じやすくなります。そのため、周囲溝や枕地作溝等の**表面排水**と本暗きょや弾丸暗きょによる**地下排水**を組み合わせて、排水対策を徹底します。表面排水は、枕地で滞水しないよう、うね溝を排水口までつなぎます。なお、麦作時に施工した周囲溝や弾丸暗きょは、大豆作時にそのまま活用できます。

２　土づくり

小麦は酸性に弱く、土壌pHが低いと収量・品質が低下します。近年、土壌pHが低いほ場が散見されます。下表を参考に土壌改良資材を施用し、麦の高品質・安定生産に努めます。

一年の作業中では、水稲前・大豆前には土壌改良資材を投入する時間を取りにくいため、麦前に施用してください。

また、地力維持や人と環境にやさしい農業の推進のため、稲わらは焼却せずにすき込みます。

施用効果	資材名	施用量(10a当たり)	散布時期
酸度矯正	炭酸苦土石灰	200kg	播種直前まで
	オイスターミネラル	100kg～200kg	
	生石灰	100kg	播種の7～10日前まで

３　種子消毒

裸黒穂病やヤギシロトビムシ等の被害を防ぐため、種子消毒を徹底します。種子消毒は、ヤギシロトビムシに対する防除効果が高いクルーザーFS30と殺菌剤のベンレートTコートの組合せを基本とします。

対象病害虫	薬剤名	処理方法
ヤギシロトビムシ	クルーザーFS30（※）	種子10kgに薬剤60mℓを塗沫
	アドマイヤー水和剤	種子10kgに薬剤15gを乾粉衣
裸黒穂病　等	ベンレートＴコート	種子10kgに薬剤50gを乾粉衣

※クルーザーFS30とベンレートＴコートを使用する際は、先に「クルーザーFS30」を塗沫処理し、乾燥させた後に、「ベンレートＴコート」を処理します。

※クルーザーFS30は、処理薬量が少ないため、塗沫処理しづらい場合は、あらかじめ処理薬量と同量程度の水を小麦種子になじませておく（湿らす程度）と塗沫処理がしやすくなります。（注意:クルーザーFS30原液を水で薄めないでください。）

（裏面に続く）

４　播種

（１）播種適期

カントリーの円滑な荷受けのため、播種時期を品種に応じて、できるだけ揃えましょう。

シロガネコムギ	１１月２０日～１１月３０日	晩播限界の12月15日までに播種する
ちくしW２号	１１月２５日～１２月５日	

※遅播きするとヤギシロトビムシの食害リスクが高まるため、適期内での播種に努めます。

（２）播種量

適期播	大豆後作
６～７kg/10a	５～６kg/10a

※大豆後作は生育が旺盛になり倒伏しやすくなるため、播種量を１kg/10a程度減らします。

※遅播（12月6日以降）となった場合は、播種量を３割増し（８～９kg/10a）とします。

５　施肥基準（10a当たり）

大豆後作では生育が旺盛になり倒伏しやすくなるため、基肥を減らします。

品種名	基肥	追肥	
		１回目	穂揃期
シロガネコムギ	ちくごのめぐみ444 40kg （大豆あとは20kg）	麦追肥一発２号 40kg	―
ちくしW２号	ちくごのめぐみ444 40kg （大豆あとは20kg）	硬質小麦専用追肥 （3004） **30kg**	**尿素４kg**（水100L） **×２回**

６　雑草防除

薬剤名	処理時期	10ａ当たり 使用量	留意事項
ラウンドアップ マックスロード	播種前または 播種後出芽前まで	500mℓ/水50L (少量散布25～50L)	・播種後の土壌処理剤も必ず散布する ・飛散に注意する
ザクサ液剤	耕起または播種前	500mℓ/水100L	
リベレーター フロアブル	播種後～麦３葉期 (雑草発生前～イネ科雑草１葉期まで)	60～80mℓ /水100L	・土壌が湿りすぎていると効果ムラや薬害の原因になることがある ・まれに麦の葉身に白化や黄化が見られることがあるが、その後の生育に影響はない
リベレーターG （細粒剤）	播種後～麦２葉期 (雑草発生前～イネ科雑草１葉期まで)	４～５kg	

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう！